

2021年5月6日

日頃より舞台芸術を支えてくださる皆様へ

緊急事態宣言 期間延長に際して

緊急事態舞台芸術ネットワーク

日頃より多くの舞台芸術活動にご支援いただき、また、各公演の開催にあたっては、感染予防対策の遵守徹底にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、既にご存じの通り、三度目となるこのたびの緊急事態宣言については、今週中にも、その期間延長の決定が下される公算が大きくなっております。

去る4月25日に発出された今回の緊急事態宣言では、対象地域である東京・大阪・京都・兵庫の4都府県で開催されるイベントについて、「無観客での開催とすること」と定められました。しかしながら、ライブイベントは本来、お客様と実際に空間を共有することで、初めて成立するものです。したがって、この決定は、実質的には「舞台興行の中止要請」であったと考えております。

そして、先の決定が、事前の予告なく、お客様にご案内する期間の猶予も与えられない状況で行われたことに対して、ここでお詫びいたします。国と自治体との間の連携も不十分で、結果、各主催者は不本意ながら、目前に迫った公演を急遽、中止判断せざるを得ませんでした。上演を心待ちにしてくださっていたお客様お一人お一人のお顔を想像しますと、身を切られる思いがいたします。なお先頃、当ネットワークは、「論座 - 朝日新聞社の言論サイト」のインタビューに応じ、この時に生じた舞台芸術界の混乱と当惑をつまびらかにしております（「緊急事態宣言、演劇界は東京都の「怠慢」に振り回された」<https://webronza.asahi.com/culture/articles/2021042800009.html>）。ぜひご一読いただきたく存じます。

初回の緊急事態宣言が解除された昨年5月より、1年が経過いたしますが、少なくとも当ネットワークの参加団体が催行する公演では、劇場内客席でのクラスター感染は起きておりません。公演開催にあたっては、政府関係当局の対処方針に則り、ガイドラインを策定し、徹底的に感染症対策を行ってまいりました。入場時の検温および手指消毒、マスク着用の徹底、上演前後の発声もなく、お客様同士の距離も保ち、余裕を持った入場と規制退場、会場までの直行直帰を呼びかけるなど、感染拡大予防に全力で取り組んできております。

このようにお客様のご協力の下、対策を徹底することで、感染者報告ゼロのエビデンスを積み重ね、劇場は、決して感染リスクの高い場所ではないことを実績によって示してまいりました。なお、イベントの感染リスクは低いというエビデンスについては、西村康稔内閣府特命担当大臣が、本年年頭の定例会見にて、スーパーコンピューター「富岳」での科学的検証を引かれ、お示しされている通りであり、政府も認める場所であると理解しております。

一方、昨年以降、公演中止や延期が相次いだこと、収容人数の制限が続いたことで、舞台芸術含むライブエンタテインメント産業は大きな打撃を受けております。確かに、政府や自治体による支援策が講じられているという現状はあるものの、それら施策による補助金は、実質的に、この先に新たな公演を立ち上げるだけの体力を備えた団体に対して、それも経費支出の一部を支えられる額に過ぎません。前年比8割減とも言われる業界損失は関係者や家族に重くのしかかっています。

アーティストや実演家だけでなく、スタッフや文化施設関係者等、公演に従事するものたちの生活は、時々刻々と、危機的状況に追い込まれています。一人ひとり、文化創造を支え続けるという誇りを胸に、真摯に取り組んでおりますが、残念ながら、限界は近づいているように感じております。

如何なる時も、舞台芸術は社会と共にありたいと思います。これまで当ネットワークは様々な機会を通じ、感染拡大防止に努めることを第一義としつつ公演を開催していくことをお伝えしてまいりました。舞台を愛する皆様に今を生きる喜びを提供しながら、舞台芸術に従事しているものたちの生活を守るという社会的役割を果たしたいと考えております。

現在の状況はこうした役割を持続的に果たすことのできる限界点ではありますが、引き続き、この一年の行政、音楽ほか関連業界、公演関係者、そして多くのお客様との積み重ねをもとに、現場の努力の実態とエビデンスに基づいた対策方針を政府に強く求め、安全に公演を開催してまいり所存です。

重ねてみなさまのご協力に御礼を申し上げますとともに、上記について、どうぞ皆様のご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

末筆ながら、日夜、新型コロナウイルスと向き合う医療従事者の皆様、そして感染終息に向けてご尽力されておられる皆様お一人おひとりに心から御礼申し上げます。